

# Pan-Report™

発行 ;PanRollingInc.

年間購読料 63,000 円

無断転用禁止

#6F,7-9-18,Nishishinjuku,Sinjuku-ku,Tokyo,Japan,160-0023 〒 160-0023 東京都新宿区西新宿 7-9-18-6F fax03-5386-7393

## 《ハイテク株のリードが続く》

株式

足立眞一

本欄では昨年12月からハイテク株に注目してきた。ヒントはウォール街にあり昨年の株価のパフォーマンスはハイテクが上昇率のトップであった。

足元の業績は不振であるのに下の株価チャートが示すように2009年の、ハイテクを代表するナスダック指数の動きはNYダウ平均+22.6%、S&P500+26.4%を凌駕し+45.3%と大きくアウトパフォーマンスした。



ナスダック指数とNYダウ平均

このトレンドは、2010年に入ってからも続いている。昨日もナスダック指数がNY株をけん引した。“2009年は投資家がハイテク株に注目しハイテク製品の需要回復、IT投資の復活に注目してきた。その読みは当たり2倍～3倍になる銘柄が出てきた”と先週のバロンズ誌の人気コラムの「Technology Week」は書いている。

昨年3月には未曾有の金融危機に解決の兆しが出て相場が大底入れしたが、その時に買われたのは金融、ハイテクであった。金融が買われたのは政府の金融機関への大量の資金注入が材料になったが、ハイテクはITバブル崩壊以来、投資を控えキャッシュフローを積み上げ手元流動性の積み上げに注力してきた点を材料にした。前向きの見方ではなく、資産内容が安定しており、金融危機の影響の圏外にあるという、ハイテクには珍しい保守的な見方からの投資であった。しかし後から振り返ると、市場はハイテク株の循環的サイクルが上向きに転じるという先見性も読み始めていたともいえる。

またバロンズ誌は「2009年という年は過ぎた。大半の大手企業の第4四半期の決算発表が終わったが、数字をみるとハイテク企業の転換点は数ヵ月前に到来したことを物語っている。PC業界は生産から流通段階まで予想を上回る業績を発表した。インテル（INTC）、マイクロソフト（MSFT）、シーゲート（STX）などの業績にみられるように、これまで閉じられていた扉を吹き飛ばすような、好調な数字であった。投資家のなかには、このような動きを見落としていた」とハイテク株の動きの先見性に注目している。

マイクロソフトは10月に新OSのウィンドウズ7を発売した。前回のVistaの評判が悪かったために、個人も企業もOSの入れ替えを見送ってきた。しかし新OSの人気が高まり買い控えていた個人のほか、大半のPCが耐用年数を過ぎた企業もPCへの投資を始めた。バロンズ誌が取り上げたインテル、シーゲートは典型的なPC関連である。

またマイクロソフトはウィンドウズ7だけではなく、近くマイクロソフト・ワード2010を発売するし、秋には任天堂のWiiに匹敵するゲームの新兵器を出す。Project Natalと名付けられ、X-Boxにカメラを備え付けセンサーで利用者の動きを読み取り、コントローラなしで楽しめる。Wiiのように家庭用ゲーム業界に旋風を巻き起こすとみる専門家が多い。

また昨年12月以来、3Dの映画「アバター」が大ヒットし、3D時代の到来が迫ってきたが、TV業界に大型新製品が出現する。休日前にはパナソニックが世界に先駆けて4月に3DTVを発売すると発表した。最近のハイテクの昨年の第3四半期の決算発表でも、民生用エレクトロニクスの大型商品として3Dテレビへの期待を口にする経営者が目立った。また半導体関連にとっても大きな期待材料である。

このような動きをみているとハイテク業界には1990年代のITブーム再来の兆しを読みとれる。昨年12月の時点よりハイテクの復活の実現の可能性は確実に高まり、株式相場のけん引役の座が固まってきた。

監修 / パンローリング

TEL 03-5386-7391

<http://www.panrolling.com/>E-mail [info@panrolling.com](mailto:info@panrolling.com)